

「建築技術」短期連載 第③回
機械式定着工法による接合部配筋詳細設計
柱主筋外定着方式柱梁接合部

最上階 L 形接合部内の柱，梁主筋の定着方法は，最上階だけでなく下階柱梁接合部内の柱，梁主筋定着部の納まりにも影響するので，骨組全体の配筋施工上，特に太径鉄筋の場合には重要である。従来の機械式定着工法の場合，L 形接合部内で柱，梁主筋定着部が輻輳するので，接合部配筋詳細の納まりが難しい。一方，鉛直スタブ付き L 形接合部の場合，柱主筋定着部からの押え効果によって，梁上端筋定着部は，ト形接合部と同様，機械式直線定着とすることができる。しかし，鉛直スタブは屋上に突出するので，意匠上，採用されにくい。柱主筋定着部は，梁上端筋の上部でも屋上防水層の押えコンクリート厚さ以内に納まれば都合がよい。

これらより，最上階梁上端筋定着部を機械式直線定着とした接合部配筋詳細が考案された。この配筋詳細を柱主筋外定着方式，従来の機械式定着工法による定着方式を柱主筋内定着方式と呼ぶ。

(注記)

本稿は、「建築技術」短期連載 第3回(2015年7月号)であり、(株)建築技術のご了解を頂き、当機構 HP の WEB 講座に掲載したものです。